



月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

93.8.31 No. 3850

- 12・1 ダイ改攻撃阻止
- 55才到達者の職場追い出し阻止
- 年末手当拡差攻撃粉碎

今秋闘争に全力で決起しよう!

車両技術分科会&28 常任委員会を開催

八月二八日、動力車会館において、車両技術分科会第一回常任委員会が開催された。常任委員会では、まず本部よりとりまく情勢、一二・一ダイ改合理化攻撃、五五才到達者の職場追い出し攻撃、貨物年末手当格差攻撃をめぐむる情勢、そしてそれらの攻撃を阻止するために当面秋年末闘争へと総決起体制を構築することが急務であることが提起された。

一二・一ダイ改は従来の作業体制を抜本的に改悪する大合理化攻撃の突破口

JR東日本における当面する最大の攻防は一二・一ダイ改阻止をめぐる闘いである。一二・一ダイ改は、従来の作業体制を抜本的に改悪する大合理化である。

そもそも一二・一ダイ改に合わせて実施されようとしている「時短」は、要員増をしない限り現業における九日間の休日増(現行一〇〇日から一〇九日)は絶対に不可能なのである。(この「時短」によって隔日勤務⇨徹夜勤務は、三人体制では勤務がまわらな

いのである。)しかし、東日本は要員を一切増やさないとばかりか、五五才到達者の職場追い出しを前提に、従来からの作業体制を抜本的に改悪、勤務制度の改悪や機械合理化によって要員を削減するとうとんでもない大合理化攻撃なのである。

八月二六日、一二・一ダイ改概要提案案とされる(千葉支社)

本部より提起を受けた後、八月二六日千葉支社より提案された一二・一ダイ改の概要

(日刊「勤労千葉」、八月二七日付け・No.三八四八において既報のとおり)について検討を行った。運転関係においては、一〇項目にわたって合理化提案がなされた。このうち、検修職場を直撃する合理化は、

- (1) 構内作業ダイヤの見直し
- (2) 派出検査業務の見直し(津田沼派出)
- (3) 信号要員の見直し(幕張電車区)

の三項目が現段階で提案さ

れている。

- ① 分科会で出された意見は、直しについて、作業検査や構内入換え作業を昼間帯に集中させ、夜間業務を削減することによって徹夜勤務者の削減を狙っているのではないか?
- ② 津田沼派出の検査業務の見直しについては、派出の業務を習志野電車区の作業(または機動班?)に融合する派出検査体制解体の先鞭をつける質をもった攻撃が予想されるのではないか。
- ③ その他、構内運転士に仕業検査を行わせる。仕業検査の要員は、限定免許取得者のみにするなどの動きがある。
- ④ 限定免許の拡大によって構内運転士の削減、入れ換え業務の融合化などが大幅に拡大されるのではないか。
- ⑤ 新検査体制に向けた攻撃としては、千葉支社は今年度事業計画としてパンタグラフのすり板の自動検測器導入が盛り込まれており、職場においても制輪子がブルーに着色されたものに変わるなど新検査体制への布石と思われる動きがある。

等の意見が出された。

貨物合理化！ 手当格差を許すな！

さらに、貨物職場に対する攻撃として、(1) 春の時短に合わせこの秋にも「動乗勤改悪」提案がなされようとしている。(2) 北海道の地震、西日本の集中豪雨によって今年度の営業収入が大幅に落ち込んでいると言われ、職場では年末手当抑制の情報が意図的に流されている等の情勢となっている。

秋年末闘争に全力で決起を!

以上の動向にふまえ、すさまじいばかりの合理化・五五才到達者の職場追い出し、賃金格差の攻撃に対し、車両技術分科会として当面、

- (1) 秋年末闘争の体制確立にむけ、第二〇回勤労千葉大会の成功をかちとる。
 - (2) 早急に職場要求をまとめる。
 - (3) 大会後、第二回常任委員会を早急に開催する。
- この方針を確認した。
今秋年末闘争を全力で作成り上げ、大合理化・五五才到達者の職場追い出し、賃金格差攻撃を全力で打ち破ろう!

20回定期大会を成功させよう! 9・25、26、築港保養センター